

# 町小だより

令和4年  
12月9日  
No. 670  
御免町小学校

## 親との物語を紡ぐ

校長 相澤 祐助

母ちゃんごめんなさい

おれ ほいくえんのお兄ちゃんを ぼうではたいてしまった  
そのお兄ちゃんは あたまからちょっと血をだしてしまった  
ごめんなさい ごめんなさい

だって まいにち まいにち おれのあたまを見て  
「きもちわるい」「うつるから、ほいくえん来るな」  
って言うんだもの

まわりのお兄ちゃんたちも いっしょにわらってた  
くやしくて くやしくて  
がまんでできなかった 母ちゃんごめんなさい



この詩は、私が保育園の年少（4歳）の秋頃の記憶を思い起こして、今、書いたものです。54年前のことですが、今も鮮明に覚えています。それくらい、いじめられた記憶というものは、なかなか消えないものです。

私の母は、農家をしながら、会社の仕事もする、いわゆるダブルワークで、土日もなく働いていました。そんな母が、保育園の先生からの連絡に応じ、保育園で泣いている私を迎えに来てくれました。そして、理由も聞かず、怪我をさせた2つ上の男の子の家へ私を連れて謝りに行きました。「おれをいじめた子の家にどうしてあやまりに行くの？」私は気持ちが悪くぐちゃぐちゃになりました。でも、母は、「いけないことをしたら謝る！当たり前だよ。どんな理由があっても、人を傷つけちゃだめなんだよ。」と私に話をしました。何度も何度も頭を下げて、その子とその母親に謝る姿を見て、もう二度と母ちゃんにこんなことをさせてはダメだ、と思いました。

帰り道、「頭のことからかわれたんか？ごめんな、ごめんな。でも、母ちゃんはおめーのこと一番好きられ。ぜったいにからかった人をせめちゃだめだぞ。お前もおんなじ人間になってしまうんれ」母は涙をこらえながら私に話してくれました。

私には、生まれつき、右耳の上に、大きなあざ（痣）があります。私から見えませんが、見た人をドキッとさせるようです。でも、今、私は何とも思っていない。むしろ、このあざ（痣）は、人を差別したり、からかったりする人に立ち向かうパワーの源だと考えています。いじめは、絶対に許せない行為です。いじめをする側が悪いのです。それを見て見ぬふりをするのもいじめです。保育園の同じクラスの仲間たちが、私のことを励ましてくれたのはとてもうれしかったです。

母とともに紡いだ物語は今でも私の心に深く、鮮明に残っています。

■11月から12月は、「いじめ見逃しゼロ」「人権強調週間」と続きました。これからも、地域、学校、みんなで元気いっぱいの御免町小にしていきたいと思います。